

第4回 松川町地域産業推進協議会 会議録

日時：平成24年11月20日（火）

午前9時30分～10時55分

会場：松川町役場 2階 協議会室

【企画委員会からの第2回目の提案】

1. 開 会

2. 町長挨拶

3. 協議会長挨拶（荻原会長）

4. 協議事項〔荻原会長進行〕

（1）企画委員会からの提案

●A部会〔提案説明者：大倉 正治さん〕

①統一看板の設置

- ・案内標識等から統一を図っていく。

②町百景の地図化

- ・現在も観光パンフレットは色々とあるがバラバラなので、役場の観光係で作った細かく書き込んだ地図の素案を活かしたもので作成。さらには農園マップ等も落とし込んだ地図化を進めてもらいたい。

③その他の提案

- ・およりての森を活かしたオートキャンプ場の設置。
- ・ギネスブックへ挑戦（例えば、流しソーメンの距離など）。
- ・清流苑と新井商店街をワンコインで結ぶフルーツバスの夜間バス（大人用）
→“オートバス”の運行。
- ・エコアクション21（ISOの日本国内版）の取得。近隣自治体では箕輪町が取得済み。

《(2)提案についての意見交換》

（深津町長）

- ・特に高森町と比べても案内標識等の公共施設の看板が少ないと感じていた。皆さんも同様に感じていたから出た意見だと思う。

（協議会委員）

- ・観陽丘にたどり着くのが一苦労だった。

（深津町長）

- ・むらやま公園の案内看板を作ったが、あんな感じのものが良いと思っている。オートキャンプ場については、梅松苑も視野に入れて欲しい。梅松苑もオートキャンプ場を作りたいと

思っているが、現状では利益の面で躊躇している。

(企画委員)

・キャンプ場は山と川が条件で、飯島の与田切公園の評判が良い。およりての森が良い理由は、①都会の人は隣が見えないと不安になる。②インターに近いこと。③ダムが近いので急な増水を避けられる。④雨天時は清流苑で雨宿りしてもらい、清流苑の利用との相乗効果が期待できる。

(深津町長)

・およりての森は森林セラピー基地として申請中であり、これから整備を行なうウッドチップを敷いた遊歩道や、キャンプ場がある青年の家までの遊歩道、池の平湖などを含めて一つとして考えている。キャンプ場が近くにあるとコンパクトにまとまりすぎてしまうので、歩ける範囲でまとめたいと考えている。また、清流苑での連泊もしてもらいたい。

“オートバス”については、ワンコインではなく生田など町内にいくつかポイントを作り、松川町での滞在時間を長くさせたい。現在は何百人規模のキャパはないが、他方面へ行く旅行者のワンクッションとなり交流人口を増やしたい。

(企画委員)

・今は日帰りや車中泊等の人も多い。清流苑では他の飲食店に行けず、深夜は門も閉まっている。行き先を示した看板や地図、また足となる物が必要ではないか。

(深津町長)

・“オートバス”は町長就任時から考えていた。現在も清流苑利用者の幹事に、他の飲食店の紹介の声掛けをしてもらっている。しかし行政には限界があり、紹介を表だってするとして、商工会を通じて行えば会員外から反発が出るだろう。また、清流苑での宿泊客はファミリーであったり、温泉街をブラブラしたい客層だと思っている。

(企画委員)

・清流苑の客だけでなく、町民もターゲットにして上大島と新井を結ぶ足としての活用も良いのではないか。

(荻原会長)

・ネットを利用した観光客が多いことに驚いている。

(協議会委員)

・飲食店マップは商工会でも作成を考えており、会員外も掲載予定。リンゴ狩り客が清流苑バスで新井に来るなど臨機応変の対応が必要では。

(深津町長)

・町百景の地図化については、町民が松川町のことを知ることが大切と考えている。町民用の半日ツアーなどをどんどん企画したい。商工会の女性部の生田ツアーは好評だったと聞いている。

(協議会委員)

・インターを降りたら看板が統一されていて景観が美しいことは大切で、ぜひ進めて欲しい。観光農園も含めて統一感が必要。伊那市では景観条例があったと思うが。

●B部会〔提案説明者：松下 善幸さん〕

①ブランドの認証化

・誰がどのように認証するのか課題はあるが、6次産業化をしていく中でもロゴマーク的なものがあれば良い。

②地域通貨

・現在マーくんカードが有り、“まつかわ・すたいる”として新しくなった。さらに幅広く利用ができる環境を期待する。

《(2)提案についての意見交換》

(協議会委員)

・ブランド化は早い者勝ちと聞いたことがある。皆が良い物を作らないとダメだと思う。

(事務局)

・阿智村は認証されたシールを使っている。

(協議会委員)

・「発信力」としてシールは良いと思う。現在の贈答用チラシ等も良いと思うので、掘り進めていったら。豊丘村も6次産業化プロジェクトのシールを貼って販売している。

(企画委員)

・味、見た目など、何をブランドとするのか。

(事務局)

・それが課題であり、目的をはっきりさせ、掘り下げることが必要。

(深津町長)

・善光寺へ続く道沿いに長野県観光協会の地域興しショップのようなものができ、泰阜村や天龍村、なかひら農場などが出ていた。副知事からも松川町も出展してほしいと言われている。

(事務局)

・例えばフルーツガーデン北沢が干しりんごを作っているが、こうした物が認証されていけば良いと思う。企画委員会の中では、工業とコラボしていくことも意見として出されていた。

(荻原会長)

・贅沢な世の中となってきたのでブランド化は必要かと思う。

●C部会〔提案説明者：座光寺 泰さん〕

①ソフト面での支援（人づくり）

・自薦、他薦（本人の承諾を得る）を問わない、専門的な知識を持った人たちの人材バンクの活用。

・困り事への対応屋や課題への取り組みが目的で、マーケティングや品質管理、生産技術、PCの活用、農業の相談などができることや、趣味、文化も含めて登録できたら良いと思う。また、事務局はみらいや商工会へ置いたらどうか。

②空き店舗を利用した物販

・物販にこだわらなくて良いのではないかな。

- ・まずはニーズの把握が大切。例えば若い起業家への安価な貸出。趣味専門店や独自性を持ったもの、文化的な場所、シルバー世代のコミュニケーションの場など。
- ・課題として、空き店舗が複合となっていて権利が複雑と聞く。住居と店舗の境が無い場合が多く、インフラ整備が必要。その点上片桐は個店が多く利用しやすいようだ。
- ・農商工にとらわれず柔軟な対応が必要で、さらに具体化をするならば、テーマを絞って企画委員会を開けば良い意見が出るのではないかと。
- ・こういった形でも強力なリーダーシップのある人が必要で、制約をなくしてどうしたらできるのかを話し合うべき。

《(2) 提案についての意見交換》

(荻原会長)

- ・必ず農商工連携は必要と考えている。

(協議会委員)

- ・赤いりんごの開発がされ、松川町で講演がされる。来年は果樹の歴史 100 周年であり、農業の動きに期待する。

〈〈全体を通して〉〉(深津町長)

- ・今回の意見は空論とは思っておらず、町として取り組む。誰がどのようにやっていくかが課題。私が議員一年目の時は農商工がバラバラであり、代表者で会議をしたが 1 回で終わってしまった。町長になりこの会を立ち上げた。結果として産業とは離れまちづくり的な話となったがそれはそれで、異業種でコミュニケーションが取れたことに感謝する。

(3) 今後について(事務局)

- ・本日出された意見を基に事務局でまとめ、正副会長より町長へ提言することで全員の了解をいただく。

(4) その他(事務局)

- ・町長へ提言する前に企画委員会へフィードバックする。また、協議会の皆さんへも写しを送らせてもらう。

テーマを絞った方が良いという意見については、理事者と詰めさせてもらう。

また、今回の提案には産業観光課では補えない分野もあるので、新たにできる「まちづくり政策課」において大きな視野で検討することで考えている。従って、本協議会は今回で終了としたい。

5. 閉 会

以 上